

「さっちゃん」とわになつて

きょうは、たのしみにしてきたさつてのしみんまつりです。えきまえどおりは、*でみせがでて、パレードをみる人でいっぱいです。さつてしのキャラクター「さっちゃん」もくるそうです。

わたしは、なかよしのまきちゃんとなつみちゃんと、しみんまつりにいくやくそくをしていました。でも、おととい、わたしとまきちゃんは、なつみちゃんがかかりのしごとをわすれたことをちゅういして、口げんかとなつてしまいました。

それで、なつみちゃんをさそわずに二人^{ふたり}だけで、おまつりにきたのでした。

しかし、わたあめのおみせをみても、きんぎょすくいをみても、すこしもたのしくありません。まきちゃんを見ると、やっぱりげんきがありません。わたしは、「ねえ、このさきに『さっちゃん』がいるそうだよ。みにいこうよ。」

といって、かどをまがりました。「さっちゃん」のまわりには、大ぜい^{おほ}の人がいました。そして、そのちかくで、なつみちゃんが一人^{ひとり}でまわりをみまわっていました。

(だれかほかの人をまわっているのかなあ。それとも、わたしたちを……。)
わたしは、まきちゃんに、

「なつみちゃんがいるよ。さそおうよ。」

といました。すると、まきちゃんは、





「……だけど、なつみちゃん、まだあやまってくれてないもん……。」

と、口げんかのことをすこしきになっているようです。わたしたち二人は、だまって、なつみちゃんのうしろをそっとおとりすぎました。わたしはなつみちゃんのことかきになってふりかえると、まきちゃんもふりかえっていました。

すこしいくと、「さっちゃん」がいました。「さっちゃん」は、みんなをえがおにするキャラクターとしてにんきものです。きょうも、「さっちゃん」のまわりは、子どもたちのわができていました。わたしとまきちゃんも、そのわの中にはいました。

「さっちゃん」は、一人一人にあくしゆをしていましたが、やがて、だれかをまねきしてよびました。うしろをふりむくと、なんと、なつみちゃんがちかづいてきました。「さっちゃん」は、すこしはなれたところで一人ぼっちでいるなつみちゃんにきがついて、てまねきしたのでした。なつみちゃんは、わたしとまきちゃんにはずかしそうにちかづくと、

「このまえは、かかりのしごとをわすれちゃってごめんね。」

といいました。わたしとまきちゃんは、

「いいんだよ。こっちこそ、いいすぎてごめんね。」

そういって、なつみちゃんの手をとり、わの中にはいりました。

なつみちゃんもまきちゃんも、うれしそうです。

(やっぱり、みんないっしょがいいね。)

わたしは、こころがふわっとしてきました。わたしたち三人は、「さっちゃん」や子どもたちとつないだ手をいつまでもはなしませんでした。

*でみせ…おまつりのときなどに、とおりにならぶおみせ

●ともだちとなかよくして、たのしかったことやうれしかったことをかきましよう。